

登録コード	UAC48500	開講年度	2026				
授業題目	ドイツ語学・ドイツ文学研究IV					担当教員	葛西 敬之
						副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					⇔	ドイツ語で専門的な資料を深く読解・解釈し、それを多様な視点から考察することができる。
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					⇔	ドイツ語で専門的な資料を深く読解・解釈し、それを多様な視点から考察することができる。
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。					⇔	ドイツ語で専門的な資料を深く読解・解釈し、それを多様な視点から考察することができる。
(2)授業の概要	20世紀ドイツ文学の新たな古典的作家と評価されているローベルト・ヴァルザーの諸作品をドイツ語で精読しながら、様々な方法論によってなされた解釈を検討し、それぞれの妥当性、またその方法論の応用可能性を議論する。受講生は授業内で扱われた方法論を自身の研究対象に対して批判的に応用したものを発表し、引き続いて行われる質疑応答を経て、より深く多面的な理解を得る。						
(3)授業計画	第1回： 導入、ローベルト・ヴァルザーの詩学について 第2回： 『タンナー兄弟姉妹』－伝記的解釈 第3回： 『トゥーンのクライスト』－受容研究 第4回： 受講生発表、質疑応答 第5回： 『白雪姫』－ジャンル論 第6回： 初期詩編－1900年前後の詩と散文の関係性 第7回： 『ヤーコプ・フォン・グンテン』－脱構築主義 第8回： 受講生発表、質疑応答 第9回： 『シンデレラ』－ジェンダー論 第10回： 『中国の女、中国の男』－ポスト・コロニアル批評 第11回： 『ティーアガルテン』－都市論 第12回： 受講生発表、質疑応答 第13回： フリーダ・メルメへの書簡集－精神分析 第14回： 『猫のために』－文学社会学 第15回： 『喝采』とカフカ『天井桟敷』－間テクスト性 期末試験は行わず、期末レポートを課す。						
(4)成績評価の方法	授業内での読解の正確さ(25%)、議論への貢献度(25%)、そして授業で扱われた方法論を作品分析に応用したレポート(50%)により評価する。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89 - 80% 優、79 - 70% 良、69 - 60% 可、59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	(1)授業内で扱われるテキストが完全に理解でき、(2)議論に積極的に貢献した上で、(3)期末レポートにおいて、問題の設定が適切であり、(4)その問題の背景を説明できており、(5)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(6)先行研究に対して新たな視点が呈示できていれば、「卓越している」。上の項目のうち5つを満たせば、「かなり上にある」、4つを満たせば、「やや上にある」、3項目まで満たせば「合格水準にある」。						
(6)事前事後学習の内容	毎週15-25頁のドイツ語テキストを事前に読み、議論の問題となりうる点を考えておくこと。また担当者は該当箇所の要約を作成すると共に、前回授業のディスカッションのプロトコルを提出する。						
(7)履修上の注意	高度なドイツ語読解能力があることを前提とする。						
(8)質問,相談への対応	オフィスアワー（水曜12時10分から12時40分迄）での面談、もしくはメールにて受けつける。 アドレス：kasait@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	Robert Walser: Saemtliche Werke in Einzelausgaben. Hrsg. von Jochen Greven. Bd.20. Frankfurt am Main 1986. 他						
【参考書】	Lucas Marco-Gisi(Hg.): Robert Walser Handbuch. Leben-Werk-Wirkung. Stuttgart 2015.						